

地域連携事業報告書

2025

芸術文化観光専門職大学

Research&Innovation
Center



地域リサーチ&イノベーションセンター



芸術文化観光専門職大学
Professional College of Arts and Tourism

目次

RICプロジェクト（地域連携事業）

No.	連携先	事業名	頁
1	但馬 3 市 2 町	高校コミュニケーションワークショップ事業	1
2	豊岡市	豊岡市中学校教育研究会等支援事業	2
3	豊岡市	豊岡市立八代小学校での身体表現ワークショップ事業（「創作」の授業）	3
4	豊岡市	子どもの居場所づくりのための意識調査事業	4
5	豊岡市	竹野魅力再発見事業	5
6	養父市	養父市子ども職業体験実施事業	6
7	養父市	養父市若者ミライ会議推進事業	7
8	朝来市	あさご芸術の森美術館「風と光のページェント」支援事業	8
9	朝来市	あさご芸術の森美術館アートプログラム支援事業	9
10	朝来市	朝来市ユニバーサルツーリズム推進支援事業	10
11	香美町	香美町地域連携事業 観光コンテンツの音声データ化事業	11
12	香美町	香美町地域連携事業 日本語教室ボランティア育成事業	12
13	新温泉町	諸寄地区における観光産業活性化事業	13
14	新温泉町	観光・スポーツ振興に向けたフィールドワーク事業	14
15	新温泉町	交通政策検討事業	15
16	但馬広域行政事務組合	但馬管内の市町職員に対する研修事業（政策づくり研修－基礎編－）	16
17	兵庫県但馬県民局	起業スタートアップ支援事業	17
18	兵庫県総合教育センター	演劇で学ぶコミュニケーション能力育成講座実施事業	18
19	兵庫県高等学校教育研究会美術・工芸部会	兵庫県高校美術工芸部会後期研究大会協力事業	19
20	兵庫県立播磨福崎高等学校	播磨福崎高等学校コミュニケーションワークショップ実施事業	20
21	公益社団法人ひょうご観光本部	観光業界を目指す若者向けセミナー実施事業	21
22	但馬観光協議会	但馬観光情報発信に係る支援事業	22
23	豊岡市商工会議所青年部	但馬の公共交通活性化研修協力事業	23
24	豊岡市商工会	道の駅を地域と観光のハブ拠点とする地域連携強化へ向けた調査研究事業	24
25	豊岡市ツーリズム協議会	豊岡市の観光コンテンツ及び観光資源の発信事業	25
26	北但大震災復興 100 年記プロジェクト実行委員会	「北但大震災復興 100 年記念プロジェクト」支援事業	26
27	植村直己没後 40 年記念事業実行委員会	「星のクライマー～植村直己」プロジェクト演劇創作事業	27
28	ひめじグローバル人材育成コンソーシアム事務局	演劇教育を通じた多文化共生講演事業	28
29	淡路市商工会	道の駅「東浦ターミナルパーク」活性化事業に係る調査等事業	29
30	京丹後市立峰山中学校	峰山中学校「心を広げるコミュニケーション講座」実施事業	30
31	京丹後市立丹後中学校	丹後中学校「心を広げるコミュニケーション講座」実施事業	31
32	青翔開智中学校	青翔開智中学校コミュニケーションワークショップ実施事業	32

33	春日市ふれあい文化センター	「ふれぶんアートマネージメント講座 2025《実践編》」企画コーディネート事業	33
34	但馬信用金庫	空飛ぶクルマの導入に伴う社会インパクトの検討に関わるアドバイザー事業	34

CAT 地域貢献事業（自主事業）

No.	実施主体	事業名	頁
1	地域リサーチ&イノベーションセンター	市民公開講座「CAT 教養講座」	35
2	地域リサーチ&イノベーションセンター	大阪・関西万博「ひょうごフィールドパビリオンフェスティバル 2025」出展事業	36
3	実習支援センター	CAT 舞台芸術実習公演《Performing Arts Project (PAP)》 《TAJIMA YOUTH THEATER (TYT)》	37

・行政・団体・企業等との連携協定	38
・地域リサーチ&イノベーションセンターについて	39

◆テーマ RICプロジェクト「高校コミュニケーションワークショップ事業」

◆メンバー

(本学教員) ☆講師 石井 路子、☆講師 鎌田 麻衣子、☆助教 田上 豊、
☆講師 平田 知之、☆講師 山内 健司、☆講師 姚 瑤

(外部講師) ☆井上 三奈子、島田 曜蔵、☆高橋 智子、竹内 ミズキ、中原 明子
永田 莉子、渡辺 香奈、☆福田 倫子、☆村井 まどか、☆森岡 望
(50音順、☆は主講師)

◆キーワード コミュニケーション教育 演劇的手法 但馬3市2町 高校

◆連携先 但馬3市2町

◆概要

但馬地域の高校生が持つ潜在的コミュニケーション能力を引き出すため、演劇的手法を用いたプログラムを展開する。具体的には「自己効力感（自分の表現が受容され、何かを変えることができる経験）を増やす」、「自己検閲（自分の表現が受け入れられないのなら黙っていようという意識）を減らす」ということを目的とした。本事業において、参加者は互いの違いを尊重しながら、チームで意見をすり合わせて、正解のない想定外の課題を創造的に解決する力を養う。



◆事業内容 (プログラムの流れ)

1. アイスブレイク (導入) →安心して発言・活動できる場づくり、参加者の特性の把握
2. メインコンテンツ (展開) →正解のない想定外の課題への取り組み、小集団でのディスカッション
3. リフレクション (振り返り) →発表・全体共有、結果ではなく過程を省察

◆事業成果

但馬3市2町の公立高等学校・高等専修学校・特別支援学校20校において実施することにより、但馬地域のいずれの高校に進学した場合であっても、コミュニケーション教育を受けられる環境が整っており、エリアとしてのシームレスなコミュニケーション能力向上に貢献した。



◆テーマ RICプロジェクト「豊岡市中学校教育研究会等支援事業」

◆研究者 講師 平田 知之

◆キーワード 小中高大連携、コミュニケーション、グループワーク、主体的・対話的で深い学び、学習指導や教育計画の改善につながる評価

◆連携先 豊岡市

◆概要

授業を核にした研究を通じて「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行い、教員の授業力の向上に資するとともに、豊岡市中学校教育の推進に寄与する。

◆事業内容

実施日程と会場・実施内容（○数字は通算回数）

(1) 豊岡市中学校教育研修会国語部会研修会

- ① 第1回目 8月25日（月）14：30～16：00 豊岡市立港中学校
城崎中学校西谷教諭の授業イメージに沿った指導案検討のグループワークに対して助言をした。
- ② 第2回目 9月24日（水）15：00～16：30 豊岡市立港中学校
10月20日の公開授業に向けた指導案検討を行い、教材観や、本文中の描写を根拠とした読解の指導や思考ツール・ICTアプリ活用について助言した。

(2) 豊岡市中学校教育研修会国語部会授業研修会

- ③ 10月20日（月）13：15～16：00 豊岡市立城崎中学校
公開授業（1年「星の花が降るころに」西谷弥莉教諭）を参観後、参加者とワークショップ形式で授業をふり返る事後研修を行い、助言した。

(3) 演劇的手法を取り入れた中学校国語授業（公開授業）

- ④ 事前打合せ 11月6日（木）16：00～ 豊岡市立港中学校
12月の研修会に向けた打合せを行った。
- ⑤ 事前授業参観 12月10日（水）10：30～11：20 豊岡市立港中学校
2年生を対象に図書室で事前授業を実施し、12月17日の公開授業の準備を行った。
- ⑥ 12月17日（水）13：30～15：30 豊岡市立港中学校
演劇的手法を取り入れた中学校国語授業（2年生）の公開授業を実施し、授業解説を行った。
参観の教員にもグループ活動に参加してもらった。



演劇的手法による授業の様子（12月17日 港中学校図書室）

※この他、4/18(金)に服部教育センター長、杉本校長と、年間の計画について本学内にて打合せを行った。

◆テーマ RICプロジェクト

「豊岡市立八代小学校での身体表現ワークショップ事業（「創作」の授業）」

◆研究者 講師 深澤 南土実、講師 石井 路子、助教 小島 寛大

◆キーワード 身体表現、ダンス、ワークショップ、評価、ドキュメンテーション

◆連携先 豊岡市

◆概要

豊岡市初の小規模特認校である豊岡市立八代小学校において、同校の特色ある教育づくりを目的として本学教員が講師となり身体表現ワークショップを実施した。3年目となる今年度は、全校児童（11名）が参加し、2025年9月～2026年2月の半年間で7回のワークショップと成果発表を行った。

◆事業内容

1. 身体表現ワークショップ（講師：深澤南土実）では、前半にさまざまな物や言葉との関わりから生まれる身体の動きをもとに表現を生み出すワークショップを行った。後半は、前半の内容とダンスの振り付けを組み合わせたパフォーマンス「小さな僕の大きな夢」（約10分）を創作し、恒例の学校行事「感謝する会」（2026年2月14日）において保護者や地域住民に披露した。
2. 評価検証（担当：小島寛大）では、児童・教員・保護者を対象としたアンケート等を実施し、ワークショップの意義や成果を検証した。また、授業の振り返りと児童と講師や教員のコミュニケーションの活性化を目的としてドキュメンテーションを導入した。実施期間中、各回の授業の様子をまとめた写真と文章による記録ボードや仮設の黒板を、小学校の廊下に掲示した。

◆成果

1. 児童全員が身体表現やダンスに取り組み、学年を越えた協働や、小学校の他の授業では経験できない活動に取り組む機会となった。得意なことだけでなく苦手なことにも、それぞれが参加の仕方を工夫して取り組み、その様子がパフォーマンスの中にも取り入れられた。小学校教員やアシスタントの大学生のサポートのもと、オリジナルのパフォーマンス「小さな僕の大きな夢」を完成させることができた。
2. パフォーマンスでは、体育館の半面を広く使い、音楽に合わせた振り付けと、ワークショップで行った物を使った動きやポーズ、音からイメージした自由な動作、スローモーションなどを組み合わせ、保護者や地域の方々に授業中の取り組みを紹介することができた。特に、児童がタンバリンを持って観客席に行き来場者と交流するシーンや、一人一人が将来の夢を書いた紙を掲げる場面は、来場者から大変好評であった。成果発表は、児童と地域とのつながりを再確認する機会となった。
3. 評価検証のための調査では、児童は楽しさや達成感を感じており、保護者や教員からも「創作」の授業の継続を望む声が多いことが明らかになった。ドキュメンテーションは、授業の振り返りや情報共有、コミュニケーションのきっかけになることが確認され、今後の活用を期待する声も多く見られた。



成果発表の様子



ドキュメンテーション（各回の授業の記録ボード）

◆テーマ **RICプロジェクト「子どもの居場所づくりのための意識調査事業」**

◆研究者 助教 小島 寛大

◆キーワード 発達支援、子どもの居場所、ダンスワークショップ、親子のコミュニケーション、心理的安全性

◆連携先 豊岡市

◆概要

本学と豊岡市社会福祉課、地域の専門家が連携し、発達に特性のある子どもを対象とするコンテンポラリーダンスのワークショップと、保護者を対象講座の2本立てによる「きもちのミカタ」というプロジェクトを、昨年に続き開催した（実施期間：2025年10月～12月。Aプログラム：小学1～4年対象、Bプログラム：小学5年～中学生対象。各4回実施）。プログラムが参加者に与える心理的变化を調査し、今後の豊岡市内における子どもの居場所づくりや発達支援のあり方を検討することを目的としている。

◆事業内容

1. こどものためのコンテンポラリーダンスワークショップ（小・中学生対象）では、ダンスファシリテーターである千代その子氏（一般社団法人ダンストーク）とアシスタント2名の指導のもと、子ども自身の動きやアイデアを尊重しながら短いパフォーマンスを創作し、保護者に発表した。
2. 「子育て応援講座」（保護者対象）では、発達支援を専門とする心理士の稲垣裕見子が講師となり、子どもの特性理解や親子のコミュニケーションをテーマにレクチャーを行った。また、こどもたちのダンスワークショップでの体験について理解を深めるため、講座中に子どもたちのパフォーマンスの発表を見学した。見学後には、ダンスワークショップの一部を経験する時間も設けた。

◆成果

1. 全体で延べ28名の小中学生と16名の保護者が参加した。アンケート結果では、参加児童の多くが「またやりたい」と答え、実際に継続や複数回の参加も見られた。また、保護者からは「子どもとの関わり方を見直す機会になった」など、肯定的な声が多く寄せられた。
2. 保護者がダンスワークショップを体験する時間を設けたことや、講師がダンスワークショップと親子講座とのつながりを意識した声かけを行ったことにより、保護者と子どものコミュニケーションが促された。また、保護者の子どもの特性や取り組みについての理解を深める機会となった。
3. 次年度以降の地域展開に向けて、ダンスファシリテーターの役割や、ダンスという身体表現を用いた活動の特性について分析を行った。その結果、昨年度に作成した子どもや保護者に起こる変化の仮説（セオリー・オブ・チェンジ）をもとに、本事業の特徴的な実施方法とその効果を整理することができた。具体的には、子ども向けプログラムと保護者向け講座を同時に実施する「親子並行アプローチ」と、身体表現を通して体験を共有する「体験共有型アプローチ」という2つの観点から、本事業の意義を整理した。



ダンスワークショップの様子



保護者対象の講座の様子

◆テーマ RICプロジェクト「竹野魅力再発見事業」

◆研究者 准教授 坂本 ひとみ

◆キーワード 地域資源、ツーリズム、コンテンツ、人材育成

◆連携先 豊岡市

◆概要

夏や海のイメージが強い竹野で、竹野が持つ四季折々の良さを地域内外へ発信するために、春・秋の魅力調べ、その魅力を活かした事業を実施し、竹野ファン（関係人口）の獲得を目指す。

竹野の春・秋の魅力を活かした地域住民との交流ができる体験型ツアーの事業化に向けて、提案、プレツアーを実施する。

◆事業内容

1. ツアーの開発に向けて

「竹野地区 WG」「中竹野地区 WG」「竹野南地区 WG」これら3つの地区に分かれて、それぞれの地域資源をあらためて見つけてツアーのコンテンツとして提案をする。

2. プログラムの実施に向けて

- (1) 春・秋の地域の魅力を調査
- (2) 魅力を組み込んだモニターツアーの提案・実施
- (3) 企画のアンケート調査、投票にプレよるツアー決定

竹野魅力再発見ツアー投票結果一覧表

地区名	ツアー名	友達・ひとり旅	家族度
竹 野	竹野浜潮むすびツアー	24	49
	潮風トレッキング	25	15
	親子旅	40	66
中竹野	蓮華寺ツアー	22	10
	城山ツアー	18	29
	パワーストーン探し	31	28
竹野南	床瀬谷ツアー	30	7
	三原ツアー	15	0
	桑野本ツアー	28	37
	水山砥石ツアー	22	16
合計		255	257

(4) 秋のプレツアーの実施

(5) プレツアーのフィードバック・修正と春ツアー実施に向けた提案

◆成果

【地域資源を活用した秋のプレツアーの実施と春のプレツアーの企画】

3月28日(土)に、フィードバックツアーとして、昨年11月22日に行った竹野南地区の秋の三原の魅力体験ツアーを改良した形で実施。専門職大学の教員と学生、関西の大学からも教員と学生が参加して再度ツアーの実施に向けて調整をした。次年度には、春のプレツアーを行えるよう現在も企画している。



◆テーマ RICプロジェクト「養父市子ども職業体験実施事業」

◆研究者 准教授 瓶内 栄作

◆キーワード 職業体験、Uターン

◆連携先 養父市

◆概要

高校卒業後の進路が地元での就職または市外高等教育機関への進学と限られている養父市の子どもたちに対して、将来選択のための本格的な体験活動を提供することで、養父市の魅力を再発見してもらう。小さいころに養父市での社会人生活を検討してもらうことで、将来の職業選択において養父市での就業を考えるきっかけを作る。

◆事業内容

おしごとワークショップとして、養父市内企業の紹介、職業体験と関連する講義の実施をした。

講師：有限会社オグラ 代表取締役社長 金川 恭平 氏、同社従業員（3名）
芸術文化観光専門職大学 准教授 瓶内 栄作

実施内容：鞆製品ができるまでの講義や、ペンケースの製造体験、マーケティングや価格設定についての講義を行う。

開催校	開催日時	参加人数
関宮学園	2025年9月30日 13:40~15:30	15人(8年生)
宿南小学校	2025年12月11日 13:30~15:10	9人(5,6年生)

◆成果

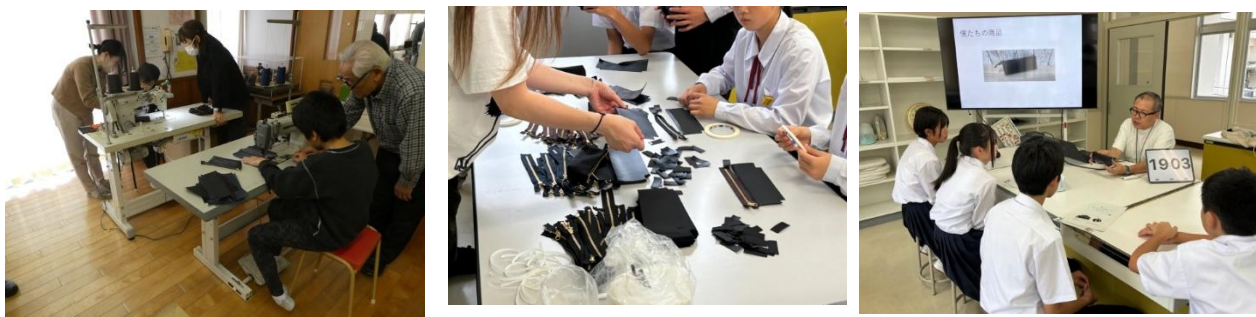
本事業については、3つの効果（①職業についての理解が深まる、②養父市の企業についての認知が高まる、③製作物を通じて体験が残る）を想定しており、それぞれを達成した。

生徒たちは単なるモノづくり体験に留まらず、原価計算や価格設定の実践を通じて、人件費や利益といった経営的視点にも関心を示した。製作面では慣れない工業用マシンに苦戦しながらも、地域企業からの指導を経て、プロの技術に対する敬意と働く大人への肯定的なイメージを抱くに至った。自らの手で作業をした達成感、地元企業への理解へと結ぶついたのであると考える。生産者・経営者の視点を知ること、製造業や商業を肌で感じたこの経験は、将来の職業観を成熟させる原体験となったと言える。

体験時のコメント（抜粋）

- ・ 高すぎてもだめだし、安すぎてもだめ。どこに売るかもとても大切だと知った
- ・ ミスなしで1日に何百個もつくるなんて驚いた。普通にやっている職人はすごい
- ・ いい商品を届けようとしているみなさんが、とても格好いいなと思った
- ・ いつか自分も、仕事にやりがいを持てるような人になりたい

図. 体験の様子



◆テーマ RICプロジェクト「養父市若者ミライ会議推進事業」

◆研究者 准教授 小畑 克典

◆キーワード 地方創生、人口減少、少子化対策

◆連携先 養父市

◆概要

養父市は令和6年度に、市の未来や地方創生に関する政策に若者世代の発想を取り入れることを目的とし、将来を担う若者が自らまちづくりに参画する組織として「若者ミライ会議」を設置した。令和7年度はテーマを少子化対策に絞り、養父市内在住の若者（15歳から30歳まで）14人を公募。出生数や人口減少について主要な課題を共有し、優先すべき政策の方向性について意見交換及び意見聴取を行った。

本学からは、教員1名と学生アシスタントがワークショップの企画、ファシリテーションにあたり、活発な意見交換に寄与した。

◆事業内容

ワークショップへの参画・ファシリテーション【場所：養父市役所、YBファブ大会議室】

2025年9月6日（土）	13:30 - 16:00	（小畑准教授、事務局、学生 SA2 名）
2025年9月24日（水）	18:30 - 20:30	（小畑准教授、事務局、学生 SA2 名）
2025年10月8日（水）	18:30 - 20:30	（小畑准教授、事務局、学生 SA2 名）
2025年10月21日（火）	18:30 - 20:30	（小畑准教授、事務局）

◆成果

今年度の「養父市若者ミライ会議」は、高校生、大学生、社会人、養父で生まれ育った方から移住者までと、幅広く若年層が参加して活発な意見交換が行われた。第4回（最終回）での大林市長とのディスカッションでは、限られた時間の中で、若者の生活実感に即したコメントに対し、市長が自らの実体験をふまえて回答する等、幅広いテーマについて率直かつ建設的な対話が行われた。日頃市政について首長と直接に議論する機会のない若年層参加者にとって、貴重な機会となった。

「若者ミライ会議」は、市政や市の将来の姿について議論を交わす場が日常の中で持ちにくい若年層にとって、多様な考え方に触れ、思いを共有する機会となった。少子化対策をテーマとしつつ、それに限らず、市政や街のあり方について幅広く活発な議論が行われ、若者ミライ会議としての提言には若年層の切実な要望が反映されることとなった。

少子化対策には、「子育て世代の誘引」、「出会いの創出」、「産む環境・育てる環境の整備」等、複層的な施策が行政に要求される。それらを包括的に捉えた解が即時に得られたわけではないが、今後の政策立案・実現に向けた、若者層の能動的な参与のあり方について示唆に富む内容となった。



「若者ミライ会議」メンバーと養父市長とのディスカッションの様子

◆テーマ **RICプロジェクト「あさご芸術の森美術館『風と光のページェント』支援事業」**◆研究者 **准教授 杉山 至**◆キーワード **舞台美術、制作**◆連携先 **朝来市**

◆概要

この事業は本年度で4年目となる。初年度から関わった学生が卒業し、杉山ゼミ3年生のメンバーを中心に企画・制作にあたった。今年度は美術館のメイン展示でもある、淀井敏夫没後二十周年(開館二十周年)という記念の年であり、淀井作品とコラボレーションする作品を新規に追加し、インタラクティブな展示オブジェ、ワークショップ、スタンプラリー、ナイトパレードを行なった。

◆事業内容

今年度のテーマは「風と光の船に乗り、記憶の旅にでかけよう！」を掲げた。

以下は実際に行った企画。

1. ワークショップ企画「キャンドルグラス デコレーション♡」

出来たキャンドルを作品を学生がデザインした背景の前で撮影し、会場で作品を紹介した。

2. スタンプラリー「輝く光のカケラをさがせ！！」

スタンプラリーの場所は合計6箇所。全部を回って謎を解くと、景品がもらえる。

場所 1/「最後の午餐」、2/ブリッジ、3/船、4/「仮面」、5/「戯れる波と犬と少年」6/ワークショップ会場

3. イベント当日の観客参加型ダンスパフォーマンス (キャンドルナイトパレード)

橋と船を軸に淀井作品3つとコラボした作品を参加した子供たちとパレード&ダンスしながら巡る。子供たちはアイテムを体につけてダンスの時にそれを使って踊る。

4. キャンドルイベントのエリアデザインとオブジェ製作

昨年来の2つのオブジェ「光の橋」「船のオブジェ」に今年度は2つの淀井作品「仮面」「戯れる波と犬と少年」とコラボした作品を製作。参加者に新たな視点で淀井作品を鑑賞してもらおう機会を創出した。

◆成果

淀井作品とコラボしたことで、製作した4つのオブジェが物語を通して有機的につながり、美術館のあり方自体とも連携したことで、あさご芸術の森ならではの個性をより活かすことに成功した。また4年目ということで、CAT自体が地域で果たす役割も一定の成果をあげてきており、美術館と美術館ボランティアスタッフとの継続的で良好な関係が重要である。



◆テーマ **RICプロジェクト「あさご芸術の森美術館アートプログラム支援事業」**◆研究者 **助教 小島 寛大**◆キーワード **美術館、学校連携、鑑賞教育、ワークショップ、作品ガイドカード**◆連携先 **朝来市**

◆概要

あさご芸術の森美術館の子どもの来館者の増加と、来館時の鑑賞体験の充実を目的として、①小学生を対象とするアートプログラムと、②こどものための作品ガイドカードの制作という2事業を実施した。

◆事業内容

1. アートプログラムの実施（実施日：2025年6月23日）

昨年度に美術館と本学が連携して試行した、こどものためのアートプログラムを、朝来市立生野小学校6年生18名を対象に実施した。このプログラムでは、コンパクトデジタルカメラを1人1台用意し、美術館内や屋外で彫刻作品や風景を自由に撮影した。撮影した写真の中から、それぞれがお気に入りの1枚を選び、後日、生野メインホールにおいて写真展を開催した（開催期間：2025年7月16日～27日）。

2. こどものための作品ガイドカードの制作

こどもが家族連れや学校行事で同美術館を訪問した際に、引率者と共にコミュニケーションをとりながら作品鑑賞を楽しむことができるよう、中庭に設置されている淀井敏夫氏の野外彫刻14作品のディテールや背景に目を向けるきっかけとなる質問を掲載したカードセット（表紙・裏表紙を含め全16枚）を制作した。本学SAとともにアイデアスケッチのワークショップを開催し、こどもたちが主体的に作品鑑賞を楽しむ様々なアイデアを検討した。その結果、クイズ感覚で楽しめるカード形式のガイドを制作することとした。

◆成果

- 参加児童は、1人1台のコンパクトデジタルカメラを持って意識的に作品や風景に目を向けることで、楽しみながら積極的に取り組む様子が見られた。小学校からの移動は朝来市のスクールバスを活用することで、予算を抑えつつ、こどもたちが充実した鑑賞と創作の経験を通して美術館に親しむ機会を創出することができた。写真展を生野小学校から徒歩圏内の会場で実施したことで、保護者等の来場も多く、美術館の取り組みを地域住民に広く周知することができた。
- 作品ガイドカードの制作にあたっては、あさご芸術の森美術館の学芸員と議論を重ねながら、カードに掲載する質問の内容とデザインを検討し、150セットを制作した。今後、美術館での活用を通して、こどもたちの鑑賞体験を深める教材としての活用が期待される。



アートプログラムの様子



こどものための作品ガイドカード（一部）

◆テーマ **RICプロジェクト「朝来市ユニバーサルツーリズム推進支援事業」**

◆研究者 **教授 高橋 伸佳**

◆キーワード **観光、ユニバーサルデザイン**

◆連携先 **朝来市**

◆概要

「第3次朝来市観光基本計画」に掲げられた、高齢や障がい等の有無にかかわらず誰もが気兼ねなく朝来市を楽しむことができる「誰にでもやさしい観光地づくり」を実現するため、以下事業を実施した。

◆事業内容

1. ユニバーサルツーリズムセミナーの開催

開催日・場所：2025年6月26日 竹田地区コミュニティセンター

2025年6月27日 生野メインホール

講師：株式会社JTB 総合研究所 地域交流共創部

ユニバーサルツーリズム推進担当 首席主任研究員 勝野裕子氏

ファシリテーター：高橋伸佳（本学）

内容：ユニバーサルツーリズムとは／少しの工夫で旅は変わる

ホスピタリティのカ／わたしたちにできること



2. ユニバーサルツーリズムに係る仮想グループインタビュー

ユニバーサルツーリズムの重点ターゲットをペルソナ化したうえで、「仮想グループインタビュー」というAIを活用したシミュレーション手法を採用して展開した。ペルソナはAIであるがインタビュアー（司会）は高橋伸佳がつとめた。このインタビュー手法は大規模データに基づく一般論を基にしたペルソナの議論に過ぎないが、ターゲットの思考に基づくロジックとしての整合性を図るとともに、朝来市のユニバーサルツーリズムの仮説を描き、調査に応用していくことを前提とした。

3. ユニバーサルフィールドワークの実施

仮想グループインタビューを通じて得た「情報のアクセシビリティ」や「ソフト面のホスピタリティ」の重要性という仮説に基づき、観光現場（生野エリア・和田山エリア）でのフィールドワークをスチューデントアシスタント（SA）とともに実施した。



◆成果

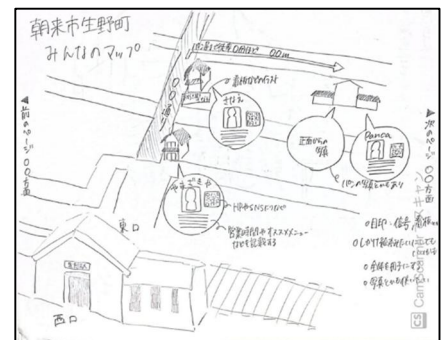
1. ユニバーサルセミナーによる事業者等の意識改革

実績：参加者数 21名／セミナーの満足度（大変満足 50%、やや満足 50%）

参加者からは、「支援という考え方ではなく、生活の一部に取り入れながら理解の輪を広げていきたい」、「過剰になりすぎず、自然に目配り・心配りができるような個々の意識を高めることが大切」といった、ホスピタリティの本質を突いた意見が多く寄せられた。

2. 仮想グループインタビュー～フィールドワークの成果

仮説の設定に基づいたフィールドワークによって事業者等の課題を加味して、多様な旅行者の街歩きを支援する具体的なアウトプットとして「生野ユニバーサルマップ」のプロトタイプ（右図）を制作した。本マップは、フィールドワークで記録した写真やメモを基に、障がい者、高齢者、外国人観光客など、あらゆる来訪者の「不安」を解消するための情報を統合したものである。



◆テーマ RICプロジェクト「香美町地域連携事業 観光コンテンツの音声データ化事業」

◆研究者 准教授 藤本 悠

◆キーワード 地域活性化、観光誘致、地域資源、音の AR、生成 AI

◆連携先 香美町

◆概要

本プロジェクトでは、ソニー株式会社が展開する「音の AR」サービス、Locatone を用いた観光コンテンツの音声データ化に関する調査と研究開発を行った。この事業では、生成 AI を駆使し、行政がこれまでに刊行してきた町誌や文化財リスト、報告書等から生成 AI によるオリジナルの物語を生成した。Locatone を用いることで、音声ガイド不足の問題が解消できると期待している。今年度は柴山地域において制作した作品を一般公開したほか、地域情報論の授業では、学生らと佐津地域でのフィールドワークを実施し、授業課題で生成 AI による音声ドラマコンテンツの作成を行った。現在は、ローカル生成 AI の活用や生成 AI によるコンテンツの完全自動化に向けた開発を行っている。

◆事業内容（開発等は除く）

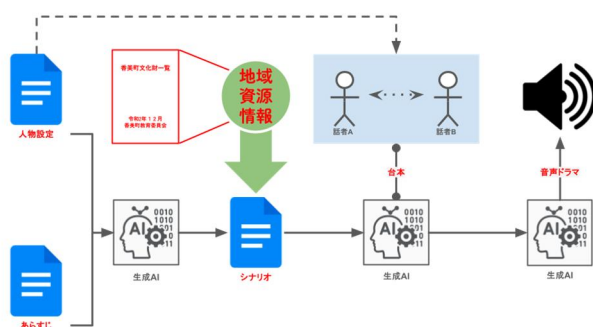
実施日	事業内容	場所
7月7日	Locatone コンテンツの作成についての打ち合わせ	ソニー本社ビル
8月8日	柴山地域での Locatone コンテンツの実証実験	柴山地域
8月12日	Locatone コンテンツの体験会およびワークショップ	香美町役場
9月11日	Locatone コンテンツの公開(9月30日まで)	柴山地域
11月1日	地域情報論でのフィールドワーク	佐津地域

◆成果

1. AI を活用することでガイド不足を解消するための具体的なモデルの構築に成功した。
2. 音声コンテンツは利用者の「想像力」によって視覚効果を補うことが明らかとなった。
3. 生成 AI を使用し、行政がこれまでに刊行した資料やデータ等を活用する方法を確立した。
4. 生成 AI を活用することで、誰でも音声コンテンツの作成ができることが明らかになった。
5. 生成 AI を活用することで、コンテンツ制作費用を劇的に低減できることがわかった。
6. Local 生成 AI を用いた音声ドラマ制作が可能であることがわかった。



学生らと一緒にいった現地調査の様子



生成 AI を利用した観光コンテンツの構築

◆テーマ RICプロジェクト「香美町地域連携事業 日本語教室ボランティア育成事業」

◆研究者 講師 姚 瑶

◆キーワード 多文化共生、日本語ボランティア

◆連携先 香美町

◆概要

日本語ボランティア数の減少という課題を解決するため、町内で多文化共生・日本語教室に興味を持っていただくきっかけを作り、今後の人材育成及び町内の意識醸成を図る。

◆事業内容

町民向けのワークショップを実施。(3回)

◆成果

多文化共生を学ぼう! ワークショップ3回実施

1. 異文化理解ワークショップ (2025.9.13)
2. やさしい日本語 (2025.9.27)
3. 日本語教育ボランティアの基本 (2025.10.11)

事業実施

参加者数 27人



写真1 参加者の話し合い



写真2 やさしい日本語の演劇作り①



写真3 やさしい日本語の演劇作り②



写真4 教案作りに挑戦



写真5 模擬授業



写真6 演劇練習中

◆テーマ RICプロジェクト「諸寄地区における観光産業活性化事業」

◆研究者 准教授 杉山 至、准教授 小畑 克典

◆キーワード 観光まちづくり、日本遺産、北前船・船主集落

◆連携先 新温泉町

◆概要

諸寄地区は、平成 30 年 5 月に「北前船寄港地・船主集落」として日本遺産の認定を受けたことを機に、地域全体でまちづくりに取り組む組織「諸寄活性化委員会」を立ち上げ、活動を行っている。

本プロジェクトの 5 年目となる今年度は、「地域の活性化と観光」「観光と地域づくり」を継続するとともに、今年度から検討する「廻船問屋道盛邸」の整備後の活用について、現地視察等を通じて指導助言を実施した。また、地域の魅力再発見や先進事例の紹介等を行った上で、観光とまちづくりについて地域住民も参加したワークショップを開催した。

◆事業内容

1. 新温泉町「廻船問屋千原屋道盛邸」整備検討委員会への参画【場所：諸寄基幹集落センター】
 - 2025 年 11 月 25 日（火） 13：30～（杉山准教授、小畑准教授、事務局）
 - 2026 年 1 月 30 日（金） 13：00～（杉山准教授、小畑准教授、事務局）
 - 2026 年 3 月 9 日（金） 13：00～（杉山准教授、小畑准教授、事務局）
2. 諸寄まちづくり意見交換会の開催（杉山准教授、小畑准教授、事務局）
 - 2025 年 11 月 2 日（日）【場所：諸寄基幹集落センター】
 - 第 1 部 13：00～ 道盛邸現地視察会
 - 第 2 部 14：30～ 意見交換会
 - 千原屋道盛邸の現況と今後（報告：川夏晴夫氏 新温泉町教育委員会）
 - 古民家の先進地活用事例（講師：浅沼秀治氏）
 - 座談会「道盛邸でなにができるか」（進行：杉山准教授、小畑准教授）
 - 2026 年 2 月 28 日（土）【場所：諸寄基幹集落センター】
 - （出席者を浜坂高校の生徒、地域の女性に限定して開催）
 - 第 1 部 13：00～ 道盛邸現地視察会
 - 第 2 部 14：30～ 意見交換会「道盛邸でなにがしたいか」（進行：小畑准教授）
3. 鳥取県智頭町の国登録有形文化財「旧塩屋出店」の視察（杉山准教授）
 - 2025 年 12 月 23 日（火）

◆成果

諸寄地区の「廻船問屋千原屋道盛邸」の整備・活用計画に参画し、地域全体の取り組みをサポートするとともに、道盛邸の視察会、意見交換会の開催や古民家活用の先進事例の紹介などを通じ、幅広く建設的な意見を集めての議論の場を醸成した。

諸寄地区のまちづくりについては、道盛邸の整備・活用にとどまらず、「北前船寄港地まつり」への本学学生の参画や、諸寄地区に部材のみが残る「移動式芸屋台」の復元計画など、連携事業打合せ会議において魅力ある観光まちづくりに向けた活発な意見交換を実施した。



外部講師による活用事例紹介



意見交換会

◆テーマ RICプロジェクト「観光・スポーツ振興に向けたフィールドワーク事業」

◆研究者 教授 高橋 伸佳

◆キーワード ウォーキングコース、ご当地体操、ユニバーサルデザイン

◆連携先 新温泉町

◆概要

新型コロナ収束後の観光・スポーツ振興のため、地域に潜在する観光・スポーツツーリズム的資源を発掘し、それらを活用したイベントや事業を企画することで、交流人口と関係人口の増加を目指す。

◆事業内容

1. 潜在的資源の再発掘に向けた視察調査の実施

同町居組エリアにおいて計4回の実地調査を行い、昨年度開発コース（2種）歩行の安全性、身体的負荷、景観の連続性を精査した。Google マップ等のデジタルデータと実態の乖離を修正し、地域住民へのヒアリングを通じて隠れたソフト資源を掘り起こした。



2. 地域特性を活かしたウォーキングコースの作成

視察調査の結果に基づき、新温泉町ならではの自然や文化を五感で楽しめるウォーキングコースを新たに策定した。これは、町民の居場所づくりと交流に重きを置きつつ、ユニバーサルデザインの視点を取り入れたプロトタイプとして整備したものである。

3. 健康増進と地域一体感を醸成する「ご当地体操」の作成

ウォーキングとの相乗効果を図るため、居組の文化や風景を題材としたオリジナル体操を創作した。伝統芸能「麒麟獅子」の動き等を取り入れ、医学的観点から血流促進や転倒予防、認知機能への刺激を考慮した設計とし、多世代が主体的に取り組める健康プログラムとして位置づけた。

4. 多世代交流を実現するウォーキングイベントの開催

成果発表の場として、イベント「いぐみウォークデー」を開催した。フォト交流やクイズ大会を通じて、楽しみながら地域の魅力を再発見し、町民同士の深い交流を促すプラットフォームとして機能させることとした。

◆成果

1～2. ユニバーサル化コースの開発（新設）

昨年度開発の2コースの負荷量の測定とともに、新ウォーキングコース「ちょっとここで一休さんコース」を開発した。当年度は新たな課題として、一部ユニバーサル化の要請があったことに伴う措置であった。

3. 居組地区 新感覚ご当地体操「居組のマーチ」の開発

本体操の所要時間は約1分30秒であり、運動強度は概ねラジオ体操と同程度弱（約3～4METs）を想定しており安全性に配慮しながら日常的な身体活動量の確保を図る構成とした。

作詞・作曲/振付 本学・木全紗苗さん

4. ウォーキングイベントの実施 「いぐみウォークデー」は80名の参加者とメディアの取材があった。



◆テーマ RICプロジェクト「交通政策検討事業」

◆研究者 講師 野津 直樹

◆キーワード 地域公共交通、新温泉町、町民バス、将来利用者数推計、デマンド型交通、ライドシェア

◆連携先 新温泉町

◆概要

平成20年に導入された新温泉町民バス「夢つばめ」は、導入から17年が経過し、急激な人口減少や運転手不足（2024年問題）といった深刻な課題に直面している。

本事業では、データに基づく現状分析と近隣自治体の先進事例調査を通じて、町民の「移動の足」を今後も維持するための持続可能な公共交通体系のあり方を検討した。



図1 浜坂駅前出発を待つ町民バス「夢つばめ」

◆事業内容

1. 浜坂病院バス停留所における乗降調査

主要拠点である浜坂病院停留所において、特定日の乗降客数および車両通過時の車内乗客数を調査した。日中の時間帯における空席の実態を把握し、現行の運行体系の有効性を検証した。

2. コーホート要因法を援用した将来利用者数の推計

2024年時点の年齢別データに基づき、2034年度までの児童・生徒数の推移を推計した。主要な利用者層である通学需要の減少が、将来の路線網維持に与える影響を客観的に評価した。

3. 運行事業者および近隣自治体へのヒアリング調査

運行実務を担う全但バス株式会社から現場の課題をヒアリングするとともに、市営バスをデマンド型乗合交通「あさGO」に転換した朝来市や、令和7年度から竹野地区で地域住民とも連携したデマンド型乗合交通「たけの〜」を新たに展開する豊岡市の事例を調査し、再編に向けた示唆を得た。

◆成果

1. 利用実態の可視化と需要のミスマッチの特定

調査の結果、朝の通学時間帯には利用が集中する一方で、日中の便の76%で浜坂病院での乗降客が0名であり、空席のまま走行する実態が裏付けられた。現行の通学需要を主軸としたダイヤが日中の通院ニーズ等と必ずしも合致していない可能性が浮き彫りとなった。

2. 中山間地域における「通学需要のさらなる減少」予測

将来推計により、温泉小学校区の児童数が2030年度には2024年度比でほぼ半減（95名→45名）する等、中山間地域の通学需要が激減することが判明した。これにより、現在の大型・中型車両による多頻度運行を維持する前提条件が崩れつつあることが示された。

3. 持続可能な交通体系に向けた提言

調査結果に基づき、主に以下の3点を提言した。

スクールバスと生活交通との再分離：町内児童・生徒数のさらなる減少を見据え、通学時はスクール専用便として登下校ニーズに特化し、日中はデマンド型交通へ転換することで運行効率と利便性の両立を図る。

持続可能な運行体制の構築：令和以降の自家用有償旅客運送制度改正を踏まえ、バス事業者の専門性と地域の一種免許ドライバー等の交通資源を融合させた、安全で持続可能な移動手段の運行体制を構築する。

地域課題に応じた路線別の検討：全町一律の転換ではなく、浜坂温泉線等の大動脈の定時定路線運行維持と枝線のデマンド化を組み合わせ、地域の実情に即した新温泉町独自の最適な交通体系を模索する。

地区別人口推移（2015～2024）



図2 新温泉町の地区別人口推移(2015-24)

表1 浜坂病院前乗降調査記録(一部抜粋)

路線	始発地	発着時刻	終着地	乗車人数	降車人数	乗客数	調査時刻	備考
2. 久斗山線	浜坂駅	07:06	浜坂病院	0	0	0	07:06	
1. 浜坂温泉線	湯村温泉	07:47	浜坂駅	0	0	7	07:47	
3. 赤崎循環線	三尾	07:50	浜坂駅	0	0	10	07:51	
2. 久斗山線	久斗山	07:53	浜坂駅	0	0	2	07:53	
4. 居組線	居組港	08:06	浜坂病院	0	1	0	08:06	
4. 居組線	浜坂病院	08:15	居組港	0	0	0	08:15	
1. 浜坂温泉線	湯村温泉	08:23	浜坂駅	0	2	1	08:23	
2. 久斗山線	浜坂駅	08:32	久斗山	0	1	0	08:33	
3. 赤崎循環線	田井	08:32	浜坂病院	-	-	-	-	※1
1. 浜坂温泉線	浜坂駅	08:58	湯村温泉	0	1	1	09:02	
3. 赤崎循環線	浜坂駅	09:11	三尾	0	0	0	09:12	
3. 赤崎循環線	三尾	09:16	浜坂駅	0	2	0	09:16	
1. 浜坂温泉線	浜坂駅	09:23	湯村温泉	0	1	2	09:24	
2. 久斗山線	久斗山	09:23	浜坂駅	0	0	2	09:23	
4. 居組線	居組港	09:27	浜坂病院	0	0	0	09:26	
1. 浜坂温泉線	湯村温泉	09:53	浜坂駅	0	0	5	09:53	
4. 居組線	浜坂病院	09:53	居組港	0	0	0	09:54	
3. 赤崎循環線	三尾	10:03	浜坂病院	0	0	0	10:03	

◆テーマ RICプロジェクト

「但馬管内の市町職員に対する研修業務（政策づくり研修－基礎編－）」

◆研究者 准教授 瓶内 栄作、講師 鎌田 麻衣子

◆キーワード 政策づくり、市民ニーズ、コミュニケーションデザイン、ロジカルシンキング、シナリオプランニング

◆連携先 但馬広域行政事務組合

◆概要

市民ニーズをとらえ、バランスよく、かつ的確に対応するために、実践的な政策作りの考え方や手法を学ぶ。

◆事業内容

但馬広域行政事務組合の職員向けに、但馬の市民・町民ニーズや環境変化を捉えた政策を立案することを目的として、3日間のプログラムにて開催された。本講座においては直接的な政策立案技法の習得ではなく、問題の発見能力や思考法といった社会人としての基盤能力に注目し、若手層を中心としてグループワークを行うことによりアクティブラーニングでの技能修得を目指した。

プログラム途中では複数の班に分かれ、自らが見出した社会課題に対しての新たな政策提案を行った。

◆成果

終日3日間のプログラムであるが、各日程間でグループでの作業を行う構造になっており、講座時間外の作業を想定した内容であった。政策立案の班は2班構成されたが、班の編成としては、参加の各市町を横断するように編成されており、各自治体の特徴を持ち寄った但馬での横断的な課題提案ができた。柔軟な思考法にはそのための準備も重要になる。特に本年度は毎日様々なワークショップを行い、対話や思考形成の過程に活用できる様々な手法についても併せて学ぶ機会とした。

社会課題の方向性としては、次の5テーマから選択をして取り組んだ。①人口減少と若者流出、②地域経済活性化に向けた地域間連携、③地域の公共交通問題、④多様性、⑤その他テーマ

実施プログラム

内容	講師	日程
・ワークショップ、ファシリテーションについて ・政策立案とリーダーシップについて	瓶内栄作 准教授 鎌田麻衣子 講師	7/8
・シナリオプランニング ・アイデア創出のためのワークショップ		7/30
・ファシリテーターのふるまい ・プレゼンテーション		8/21



研修の様子

◆テーマ **RICプロジェクト「起業スタートアップ支援事業」**◆研究者 **准教授 瓶内 栄作**◆キーワード **起業、経営革新、新分野進出**◆連携先 **兵庫県但馬県民局**

◆概要

但馬地域において起業、新分野創出・新規事業を計画している方へ向けて本事業を実施し、起業・第二創業の推進および起業家同士の交流の場の創出を目指す。

◆事業内容

- (1) 講演 瓶内 栄作
- (2) トークセッション
- | | | |
|-------------------|-------|---------|
| ①森下農園株式会社 | 代表取締役 | 森下 省吾 氏 |
| 株式会社但馬銀行山東支店 | 支店長 | 小林 貢 氏 |
| ②株式会社但馬銀行 地域戦略営業部 | 次長 | 中島 高幸 氏 |
- (3) 交流会・グループワーク

※兵庫県但馬県民局主催、本学が共催として、「スタートアップビジネススクエア 2026」を実施し、そのなかで講演を実施した。

◆成果

冒頭の瓶内講演については、但馬地域の人口減少という現状をポジティブに捉え、それを創業や第二創業の機会とする指針を示した。地域の優位性として豊富な観光資源や但馬空港、自動車道などの交通網が挙げられ、過去のゲストスピーカーの発表内容をもとにした域内・域外の需要に応じた多様な創業パターンを提示した。

その後、森下農園株式会社 代表取締役 森下 省吾 氏からの事例報告として、朝来市における農業法人の設立事例を通じ、但馬での農業起業には特産品の存在や消費地との近さといった明確な利点があることが示された。事例報告後は、但馬銀行 地域戦略営業部次長の中島 高幸 氏より、起業検討者が抱える「自己資金不足」や「失敗のリスク」といった障壁を統計から分析し、具体的な解決策が提示された。

交流会として、「数学者の折り紙教室」創業計画を考えるというケースをもとにグループワークを実施した。多彩な参加者による積極的な意見交換がなされた。

図. 当日の様子 (左) 講演、(右) 交流会



◆テーマ RICプロジェクト「演劇で学ぶコミュニケーション能力育成講座実施事業」

◆研究者 学長 平田 オリザ

◆キーワード 教育、研修、コミュニケーション

◆連携先 兵庫県総合教育センター（兵庫県教育委員会）

◆概要

県内の公立小中高及び特別支援学校の教員向けに、演劇的手法を用いたコミュニケーション教育の在り方および児童生徒に身に付けさせたいコミュニケーション能力・表現力について理解する研修を実施する。

◆事業内容

実施：令和7年10月17日(木)

○講義：「演劇で学ぶコミュニケーション」

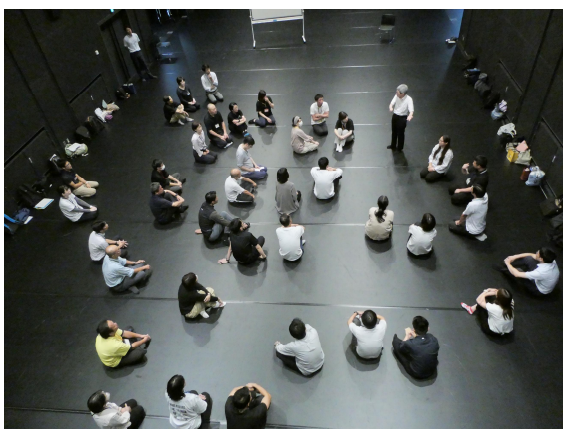
講師：平田 オリザ（芸術文化観光専門職大学 学長）

○演習：「演劇的手法を用いたコミュニケーション能力向上ワークショップ」

「演劇的手法の視点を生かした学級集団づくり」

講師：平田 オリザ（芸術文化観光専門職大学 学長）

◆事業の様子



◆テーマ **RICプロジェクト「兵庫県高校美術工芸部会後期研究大会協力事業」**

◆研究者 講師 平田 知之

◆キーワード 高大連携、コミュニケーション、グループワーク、主体的・対話的で深い学び、ファシリテーション

◆連携先 兵庫県高等学校教育研究会美術・工芸部会

◆概要

但馬地域の小中高校で行われている芸術（演劇）を活用したコミュニケーション能力育成の取り組みについて、体験的に紹介し、その意義を解説した。

◆事業内容

実施日程と会場・実施内容

日程 12月3日（水） 13：00～14：20 本学実習棟スタジオ2

実施内容

体験①

失敗が許される安全な場づくりを学ぶ アイスブレイクゲーム「セブンアップ」

体験②

自分と他者のイメージの違いを体感する 「チーム対抗ジェスチャーゲーム」

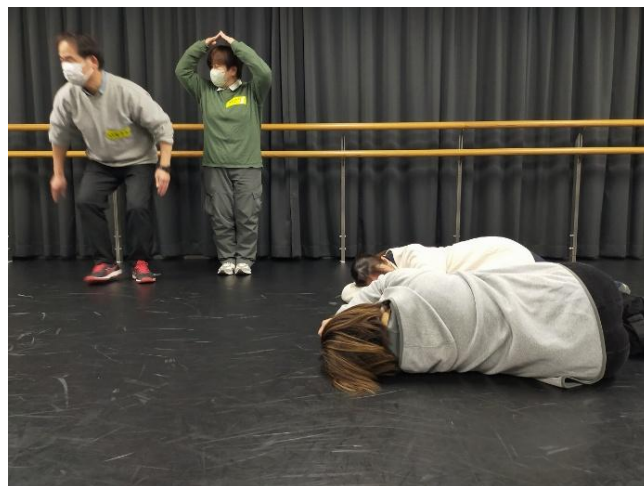
体験③

・チームで協働して正解のない課題に取り組む 「ジェスチャー創作」

・ミニレクチャー

「但馬で行われている演劇を活用したコミュニケーション教育の意味」

「ファシリテーションを日常の学習指導・生徒指導に活かす」



体験の様子（12月3日 本学スタジオ2）

- ◆テーマ RICプロジェクト「播磨福崎高等学校コミュニケーションワークショップ実施事業」
- ◆研究者 講師 山内 健司
- ◆キーワード 高校教育、コミュニケーション
- ◆連携先 兵庫県立播磨福崎高等学校

◆概要

兵庫県立播磨福崎高等学校の1年生を対象に演劇的手法を用いたコミュニケーションワークショップを実施することで、それぞれの特性に応じた自己の潜在的コミュニケーション能力を引き出し、人間関係形成能力や問題解決能力等を育む。

◆事業内容

日時：令和7年12月19日（金）

場所：兵庫県公立大学法人 芸術文化観光専門職大学（兵庫県豊岡市山王町 7-52）

内容：体験活動Ⅰ 演劇的手法を取り入れたワークショップ 講師：講師 山内 健司

体験活動Ⅱ 大学施設見学+大学説明

対象：播磨福崎高等学校第1学年生徒 約35名

◆事業の様子



◆テーマ **RICプロジェクト「観光業界を目指す若者向けセミナー実施事業」**◆研究者 **准教授 小畑 克典、講師 高橋 加織**◆キーワード **観光、まちづくり、高校生等**◆連携先 **公益社団法人ひょうご観光本部**

◆概要

本セミナーは、観光やまちづくりに関心のある兵庫県内の高校生等を対象として実施している。通算5度目の開催となる本年度は、近畿地方に現存する最古の芝居小屋である永楽館（豊岡市出石町）を会場とした。まず、神戸からの道中に位置する道の駅3か所でアクティビティを実施し、道の駅が単なる休憩所にとどまらず地域観光に積極的な意義を果たしている様子を学ぶ機会とした。次に、出石まち歩き、永楽館見学、本学学生による寄席を経て、ワークショップ「最低・最高の旅行を企画してみよう！」を行い、参加者は7チームに分かれて議論し、それぞれユニークな旅行計画を発表した。

◆事業内容 2025年3月20日（金）実施

- 1.バス車内アクティビティ「道の駅クイズ」
- 2.出石まち歩き、永楽館見学・寄席体験
- 3.ワークショップ「最低・最高の旅行を企画してみよう！」

◆成果

参加した37名の高校生は、豊岡市出石町における観光のあり方や「永楽館」が観光に果たす役割等を学ぶ機会となった。また、道中の道の駅におけるアクティビティを通じ、普段とは異なった視点から道の駅の機能を見つめ直す機会を提供するとともに、各地域の観光の見どころ、特産品について知見を広げることができた。例年定員を上回る応募者を集めており、観光やまちづくりに関心のある高校生の交流を促進する機会もなっている。アンケートにおける観光に対する関心の変化では、関心が高まったと全員が回答している。本セミナーを経て得られた新鮮な体験や興味関心の醸成が、将来的な観光人材の確保につながることを期待したい。

参加者数 神戸発着：36名、現地集合：1名、合計37名（ほか当日欠席3名）
 （学年 高校1年生：17名、高校2年生20名）

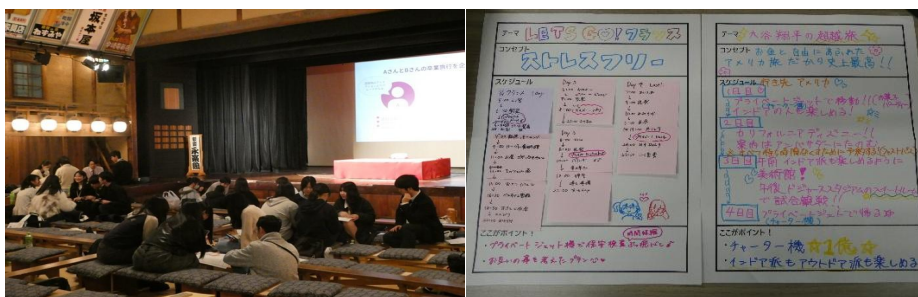


写真1 永楽館でのワークショップ 図1 最高のツアー(ワークショップより)

◆テーマ **RICプロジェクト「但馬観光情報発信に係る支援事業」**

◆研究者 **教授 高橋 伸佳**

◆キーワード **周遊型観光、体験価値、広域連携、旅行商品造成**

◆連携先 **但馬観光協議会**

◆概要

但馬観光協議会の構成団体の横の繋がりを強固にするとともに、大学の知見を取り入れ、昨年度までの動画制作の経験を生かし、観光情報の発信能力を向上させることを目的としたワークショップを実施した。

◆事業内容

1. 観光や情報発信に係る講義

ワークショップにつながるマーケティング情報と観光プラン作成の手法について講義をした。ターゲットとするミレニアル世代の価値観や旅行特性などの講義後、Pine & Gilmore「4つの経験領域」、小山内・楠見「物語世界への没入体験」など、観光プラン作成の手法を提示した。また、国内外の他地域のモデルプランの事例についても紹介し、プランづくりの解像度を上げる工夫を施した。

2. 但馬周遊モデルプランづくりワークショップ

テーマ：冬の城崎を訪れる20代後半パートナーとの2人旅1泊2日但馬周遊プラン

ルール：①計画プランにおけるコンセプト・テーマ設定を行うこと

②旅の行程のどこかに城崎が入っていること

(最初・旅中・最後までどこでも構わない)

③但馬管内の5市町のうち、いずれか3市町以上

(豊岡市含む) めぐる行程とすること

④移動手段(車・電車・バス等)は自由とする

⑤価格目安は5万円



ワークショップの様子

◆成果

本事業の目的としていた構成団体の横の繋がりを強固にすることに加えて、観光情報の発信能力を超えた周遊プランの企画・造成力向上に向けた取組みにつながったと考えられる。実際、ワークショップでは周遊プランづくりの「3市町以上」というルールが機能し、城崎温泉という強力なハブを活かしつつ、内陸部(養父・朝来)や他の沿岸部(香美・新温泉)へ誘客する動線が具体的に描く姿が確認できた。結果として、行政区画を超えた「但馬エリア全体」での周遊可能性を可視化した。また、単なる観光地巡りではなく、「聖地巡礼」「ふたりじめ」「美意識」といった20代後半カップルが好むキーワード(体験価値)も創出された。「モノ(カニ・温泉)」だけでなく「コト(物語・雰囲気)」で売る視点の意義を構成団体間で共有することができた。

タイトル	概要
おしゃれな穴場☆隠れ家Spots!	地図上の動線を意識しながら、メジャー観光地だけでなく「SOYA」や「猿尾滝」など、感度の高い若者が好むスタイリッシュな隠れ家スポットをつなぎ合わせたプラン
聖地図鑑「但馬」 ～ふたりで体感するロマンス～	但馬牛、UF0、国宝などを全て「〇〇の聖地」と再定義し、エンタメ性と物語性を持たせることで、カップルの会話が弾むようなロマンチックな周遊プラン
但馬の絶景 ふたりじめ旅	竹田城の特別ガイドや貸切風呂など、「ふたりじめ(独占欲)」をキーワードに特別感を演出しつつ、絶景写真や旬の岩津ねぎなど季節限定の魅力も凝縮したプラン
古人の美意識に触れる文化旅	民藝、建築、美術館など「知的・文化的好奇心」を満たすスポットを厳選し、時間配分や金額まで詳細に設計された、大人のカップル向けの上質なプラン
温泉好きの欲張り旅	城崎温泉」と「湯村温泉」という2大温泉地をあえてハシゴし、泉質や雰囲気の違いを楽しむという、温泉好きのニーズに特化した差別化戦略プラン

◆テーマ **RICプロジェクト「但馬の公共交通活性化研修協力事業」**◆研究者 講師 **野津 直樹**

◆キーワード ワークショップ、産学連携、公共交通利用促進、観光周遊、地域活性化、二次交通

◆連携先 豊岡商工会議所青年部

◆概要

本事業は、豊岡商工会議所青年部のメンバー約 40～50 名を対象に、観光の視点から公共交通の活性化をテーマとした講演およびワークショップを行ったものである。若手経営者が但馬地域の魅力や課題を学び、公共交通を活かした地域活性化策を産学連携によって考える機会の創出を目指した。

◆事業内容

1. 実施概要

日時：令和 7 年 10 月 20 日（月） 20:00～21:55

場所：芸術文化観光専門職大学 A101 教室

対象：豊岡商工会議所青年部メンバーおよび「OPEN YEG」参加者（約 40～50 名）

備考：上記に加え、本学学生 7 名がスチューデント・アシスタント（SA）として参加

2. 講師による講演「公共交通機関を使った外部観光客の呼び込みと周遊について」の実施

但馬地域の住民の移動の実に 7 割以上が自動車に依存し、一方で地域の公共交通は鉄道の赤字やバス路線の減便といった危機的状況にあることを共有した。

また、現状では豊岡市を訪れる観光客の 3 分の 2 がマイカー利用であり、宿泊客の大半が 1 泊 2 日の短期旅行で城崎温泉等の特定地域への滞在に偏っているという地域特有の観光課題を提示しつつ、マイカーを利用しない観光客に対して周遊を促進する上での二次交通の重要性を解説した。

3. 実践型ワークショップの実施

7～8 名ずつの 6 グループに分かれ、各班に学生が参加する産学連携の形態で以下のグループワークとディスカッションを行った。

手法：各参加者が付箋に案を書き出し、模造紙にまとめてグループ案を作成する対話型形式。

課題：豊岡の観光資源の再発掘から始まり、スマートフォンで時刻表を確認しながらの「車無しで周れる観光モデルコース」を具体的に策定した。

結果：「不便さを楽しむ工夫」や、地元の人々の工夫で実現できる「周遊を気軽にするための小さなアイデア」について議論を深めた。

◆成果

1. 公共交通利用促進に向けた地域リーダーの意識変革

地域経済の担い手である青年経済人に対し、地域公共交通の厳しい現状を自社のビジネスや地域振興に直結する課題として提示した。実際の時刻表に基づいたシミュレーションを通じ、観光客が直面する移動の制約を「自分事」として捉え直す契機を創出した。

2. 多角的な視点の融合による観光プランの具体化

学生が議論に加わることで、現役若手経営者層が持つ既存の観光イメージに、若者や公共交通利用者のリアルな視点が融合した。

このプロセスにより、従来の「車社会」前提の視点では見落とされがちだった、公共交通を基軸とした新たな観光周遊の可能性を提示することができた。

3. 地域活性化に繋がる官民学連携の推進

大学の専門的知見を地域団体へ還元すると同時に、現場の課題を共有する産学連携のモデルを構築した。

研修を通じ、「わかりやすい情報提供」や「移動そのものを楽しむ仕掛け」など、行政・事業者・地域住民が連携して取り組むべき具体的な改善の方向性が明らかになった。



写真 1 講師による講演の様子



写真 2 ワークショップの様子



写真 3 参加者集合写真

◆テーマ **RICプロジェクト**

「道の駅を地域と観光のハブ拠点とする地域連携強化へ向けた調査研究事業」

◆研究者 **准教授 瓶内 栄作**

◆キーワード **道の駅、地域活性化、まちづくり**

◆連携先 **豊岡市商工会**

◆概要

道の駅「神鍋高原」が直面している課題について、マクロとミクロ両面から分析を行い、当施設と地域が目指す「施設最適から地域最適への転換」という目的について調査研究を実施する。

◆事業内容

1. 関係者との検討会開催
2. フィールド調査の実施と施策提案
3. 分析報告書の作成

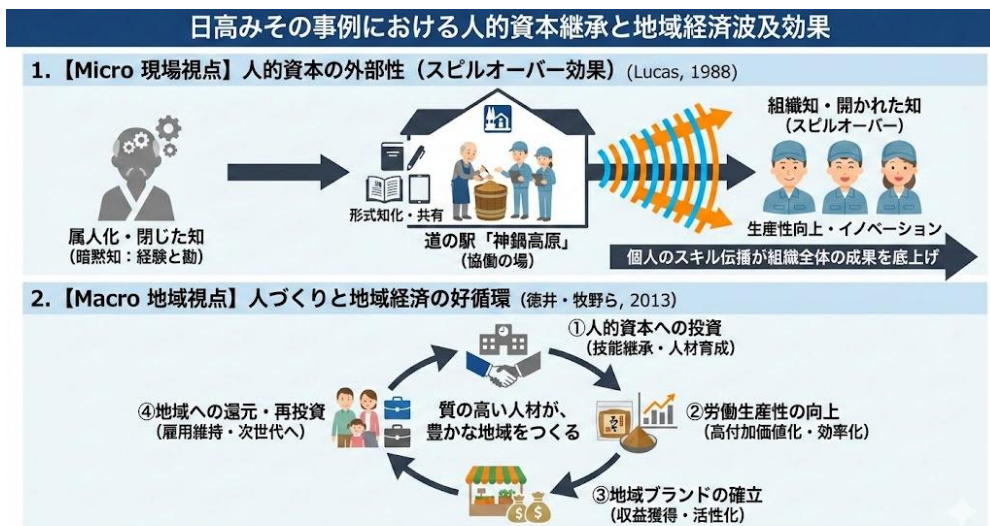
◆成果

本事業を通じ、道の駅神鍋高原が国土交通省の提唱する「第3ステージ」へ進化するための具体的な道筋を示した。ソフト面では地域連携のためのコンテンツ開発について、フィールド調査に参加した学生による提案（アウトドア・インバウンド・ペット）を実施した。

経営面では、「日高みそ」の生産体制を道の駅とその運営会社に移管させた事例について、経営学の観点から分析を行った。当該事象では、単なる事業継続ではなく、人的資本のスピルオーバー効果についても確認することができた。

また、今後地域最適を目指すために必要な取り組みとして、道の駅のプラットフォーム機能を活用することで積極的なデータ収集をし、データに基づいた意思決定を行うことの必要性を示した。

図. 日高みその事例分析



◆テーマ **RICプロジェクト「豊岡市の観光コンテンツ及び観光資源の発信事業」**

◆研究者 **教授 高橋 伸佳**

◆キーワード **観光、ウェルビーイング、観光スポット、学生視点・目線**

◆連携先 **豊岡市ツーリズム協議会**

◆概要

主なターゲットとして若年層を意識し、豊岡市の魅力を若い視点から発信することで新たな観光需要を喚起することを目的とした。事業内容は、市内の観光に関する SNS・動画コンテンツ制作・発信である。

◆事業内容

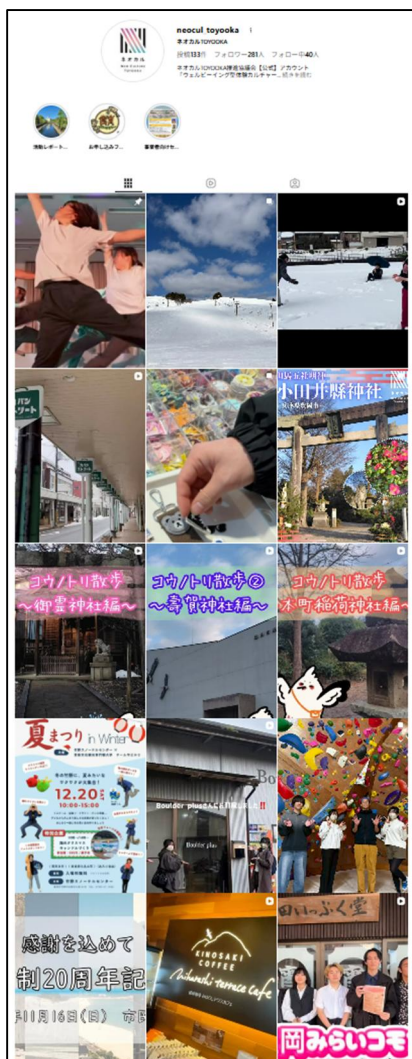
ウェルビーイング系地域観光の魅力発信・販売プラットフォームである「ネオカル TOYOOKA」の資源を活用しつつ、学生と地域が共創（コ・クリエイション）しながらコンテンツを仕掛けたり、市内の観光スポット、グルメ、文化・イベント等を学生目線で取材しコンテンツ化することで年間にわたり広く情報発信を展開した。

※発信プラットフォーム：ネオカル TOYOOKA ホームページ、Instagram、Facebook のオムニチャネルで推進

◆成果

SNS・動画コンテンツ 30 本制作・発信、Instagram フォロワー数 281 名（3 月 18 日現在）

※以下、左の画像は Instagram の投稿画面、右の画像は SNS・動画コンテンツの発信日とコンテンツのタイトル



No.	投稿日	タイトル
1	2025/7/16	出石がおしゃれすぎる件
2	2025/7/17	行かないと損する出石
3	2025/7/23	八反の滝へ！
4	2025/7/23	安くて美味しい！おしゃれレトロな世界へ In江原
5	2025/7/25	竹野浜の魅力
6	2025/7/25	山王公園で虫取り
7	2025/7/27	不思議な劇場 In江原
8	2025/8/2	浴衣で豊岡巡り
9	2025/8/4	浴衣で豊岡巡り（柳まつり）
10	2025/8/5	8月のお祭り情報（たんとうひまわりまつり）
11	2025/8/11	竹野スノーケルセンター
12	2025/8/15	ひまわりに囲まれる！たんとう花公園
13	2025/9/7	旅行の時に気をつけるべきことは何ですか～In神鍋高原～
14	2025/9/15	1日中過ごしたい、短編喫茶Un
15	2025/9/20	豊岡演劇祭ナイトマーケット
16	2025/10/6	玄武洞限定ライトアップ紹介動画
17	2025/10/21	出石そば
18	2025/11/8	豊岡みらい commons
19	2025/11/10	癒し×食『城崎珈琲みはらしテラスカフェ』
20	2025/11/11	豊岡市記念イベント
21	2025/12/4	ボルダリング施設「Bolder plus」でボルダリング
22	2025/12/9	竹野スノーケルセンターイベント
23	2026/1/18	【コウノトリ散歩①】豊岡市本町通り「本町稲荷神社」周辺
24	2026/1/19	【コウノトリ散歩②】豊岡市民会館付近「壽賀神社」周辺
25	2026/1/20	【コウノトリ散歩③】豊岡市御霊通り付近「御霊神社」周辺
26	2026/1/21	但馬五社・小田井縣神社
27	2026/2/2	ワッペンワークRikom+（りこもんぶらす）
28	2026/2/5	豊岡カバンストリート紹介
29	2026/2/19	豊岡 雪合戦
30	2026/2/27	白銀に染まる神鍋高原！

◆テーマ **RICプロジェクト『北但大震災復興 100 年記念プロジェクト』支援事業**◆研究者 学長 平田 オリザ、准教授 杉山 至、講師 高橋 加織、准教授 小畑 克典、助教 田上 豊

◆キーワード 観光、防災教育、演劇

◆連携先 北但大震災復興 100 年記念プロジェクト実行委員会

◆概要

本事業は、2025 年に城崎温泉観光協会が主催した「北但大震災 100 周年記念事業」の一環である。子供向け参加型演劇「ちっちゃい姫とユレルン博士」と、親子で楽しめる「アートで巡る城崎そぞろ歩き」ワークショップとを合わせて提供し、城崎における北但大震災の記憶を共有するとともに、震災からの復興や防災への取り組みを取り入れながら観光振興にも資する、ユニークなプログラムとなった。

◆事業内容

開催日： 2025 年 9 月 27 日（土）、28 日（日）

開催地： 城崎文芸館（豊岡市城崎町湯島 357-1）

プログラム： 11:00 - 12:00 「アートで謎解き！そぞろ歩き in 城崎」

13:00 - 14:00 立版古ワークショップ

14:15 - 14:45 「ちっちゃい姫とユレルン博士」（作・演出 平田オリザ）上演

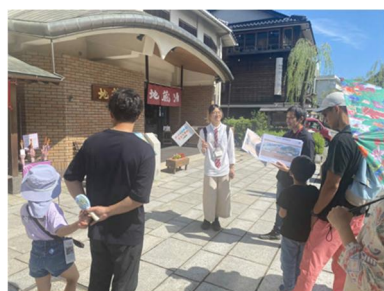
◆成果

「まち歩き」「演劇」の二つの柱で親子連れにも親しみやすいイベントとしたことで、27 日・28 日両日合わせ 40 人強（こどもが半数弱）の参加者が集まり、活況であった。

「まち歩き」では、好天にも恵まれ、江戸時代以来、震災前・震災後の城崎の街の姿を伝える資料を共有しながら城崎の街を巡ることで、大人も子供も楽しめる企画となった。昼休みを挟み、文芸館に戻っての「立版古ワークショップ」でも、実際に手を動かしながら城崎の街並みのイメージを再現してみることで、参加者の街並みに対する理解を深める絶好の機会となり、好評であった。

子供が観劇することを前提とした参加型演劇「ちっちゃい姫とユレルン博士」（作・演出 平田オリザ）は、本学の学生によって演じられ、上演に際しては子供が積極的に質問・参加するなど、好評を博した。

今回のプログラムは、震災からの復興の過程を広く内外に伝えるとともに、城崎滞在の質の向上を図るといふ目的も同時に満たす取り組みとしてユニークな事例を提供することとなった。



そぞろ歩き in 城崎



立版古ワークショップ



ちっちゃい姫とユレルン博士

◆テーマ RICプロジェクト「『星のクライマー～植村直己』プロジェクト”演劇創作事業”

◆研究者 助教 田上 豊、准教授 杉山 至

◆キーワード 植村直己、地域資源の利活用、地域リサーチ、演劇創作、学校公演

◆連携先 植村直己没後 40 年記念事業実行委員会

◆概要

植村直己没後 40 年記念事業の一環として、松任谷由美作詞「星のクライマー」の歌碑が植村直己冒険館に設置された。これを受け、関連企画として、「植村直己」および「星のクライマー」をモチーフとした演劇作品の制作・上演を実施した。上演は、芸術文化観光専門職大学および植村直己氏の母校である豊岡市立府中小学校の二会場で行った。作品制作にあたっては、担当教員の指導のもと、学生が地域リサーチを行い、その成果を踏まえてシナリオを含むクリエイション全般に取り組んだ。

◆事業内容

1. リサーチ

- (1) 植村直己冒険館、豊岡市立図書館（日高分館）での資料調査
- (2) 蘇武岳登山の実施
- (3) 有識者・関係者への聞き取り調査

2. シナリオ作成・ワークインプログレス

- (1) リサーチをもとにしたテキスト執筆（各自が短いシーンを 2～3 本執筆）
- (2) 執筆したシーン群のトライアル上演（試演）

3. 創作・上演

- (1) 上演台本の執筆
- (2) 稽古、ならびにテクニカルスタッフによる照明・音響・舞台美術プランの作成
- (3) 芸術文化観光専門職大学（学術情報館）、豊岡市立府中小学校での公演実施

4. アーカイブの作成・発信

- (1) 上演作品と作品紹介資料の記録映像を制作し、期間限定で公開・発信



◆成果

1. 観客動員数：約 450 名
（学内公演：約 200 名／小学校公演：約 250 名）
2. 各種メディアによる掲載・報道
3. 体育館や学術情報館における上演プロセスのモデル構築
4. アーカイブ映像閲覧数：約 560 件



公演の様子

◆テーマ **RICプロジェクト「演劇教育を通じた多文化共生講演事業」**◆研究者 **学長 平田 オリザ**◆キーワード **コミュニケーション教育、演劇的手法、高校教育**◆連携先 **ひめじグローバル人材育成コンソーシアム事務局**

◆概要

姫路市が実施するグローバル人材の育成と多文化共生社会の実現を図る取組みの一環として、高校生（一部一般）を対象として多文化共生・多文化理解に関する講演会を実施。多文化共生・多文化理解について、ただ知識を得るだけでなく、自分の身近にある問題として能動的に考えてもらうためきっかけとする。

◆事業内容

実施日：令和7年7月30日(水)

場 所：イーグレひめじ あいめっせホール（姫路市本町 68-290）

講 師：芸術文化観光専門職大学 学長 平田オリザ

◆事業の様子



◆テーマ RICプロジェクト「道の駅“東浦ターミナルパーク”活性化事業に係る調査等事業」

◆研究者 准教授 瓶内 栄作、教授 荒木 利雄、准教授 千賀 喜史

◆キーワード 道の駅、地域活性化、まちづくり

◆連携先 淡路市商工会

◆概要

本委託事業においては、芸術文化観光専門職大学の多彩な教員のなかから、マネジメント分野の教員ならびに学生アシスタントが参加し、淡路市に所在する東浦ターミナルパークの現状についての調査と、東浦ターミナルパーク活性化協議会ワーキンググループへの参画を行った。当該連携事業は一昨年度から実施されているが、当年度事業については現状改善ベースでの施策提案、および現状改善で使用する動画の作成が行われている。

◆事業内容

1. ワーキンググループならびに活性化協議会での助言
2. 現状改善ベースでの施策提案
3. 現状改善で使用する動画の作成

◆成果

1. ワーキンググループならびに活性化協議会での助言

協議会の構成員からも成果を期待する声が寄せられているなか、現実的な制約を鑑みながら実現可能な方策について意見集約を行ってきた。

2. 現状改善ベースでの施策提案

経営系ゼミによる現状と課題についての調査と施策提案を実施した。観光客視点と施設事業者視点の双方からアプローチを行い、地域の潜在的な魅力（特産品、景観、既存施設）を再定義する手法を探った。近隣の宿泊施設（フェアフィールド・リゾートなど）の利用客や地元住民といった、これまで十分に取り込めていなかった層へのアプローチも視野に入れている。提案は、地域ブランドの確立、SNSを活用したプロモーション、未利用空間のイベント活用、そして老朽化設備への抜本的な対策など多岐にわたる。

3. 現状改善で使用する動画の作成

現在の課題としては車両進入動線が複雑で、かつ無料駐車スペースが少ないことでの混乱や、広範囲に市営施設を含め複数棟の建物を有するエリア内の一体感などがある。これら問題について、現状すぐさまに実施可能な方策として、学生 SA(スチューデントアシスタント)による動画制作を実施した。

図. (左) 調査並びに意見交換の様子 (右) 製作動画



◆テーマ **RICプロジェクト「峰山中学校『心を広げるコミュニケーション講座』実施事業」**

◆研究者 **学長 平田 オリザ、講師 山内 健司**

◆キーワード **中学校教育、コミュニケーション**

◆連携先 **京丹後市立峰山中学校**

◆概要

京丹後市立峰山中学校における生徒の心の健康に係る支援充実のため、コミュニケーションワークショップを通じて、課題解決能力や自己肯定感の醸成、心理的安全性の確立などを図る機会を提供する。

◆事業内容

日時：令和7年12月17日(水)

場所：兵庫県公立大学法人 芸術文化観光専門職大学（兵庫県豊岡市山王町7-52）

内容：体験活動Ⅰ 演劇的手法を取り入れたワークショップ 講師：学長 平田 オリザ

体験活動Ⅱ 演劇的手法を取り入れたワークショップ 講師：講師 山内 健司

体験活動Ⅲ 大学施設見学+大学説明

対象：峰山中学校第2学年生徒 約89名

◆事業の様子



◆テーマ RICプロジェクト「丹後中学校『心を広げるコミュニケーション講座』実施事業」

◆研究者 学長 平田 オリザ

◆キーワード 中学校教育、コミュニケーション

◆連携先 京丹後市立丹後中学校

◆概要

京丹後市立丹後中学校における生徒の心の健康に係る支援充実のため、コミュニケーションワークショップを通じて、課題解決能力や自己肯定感の醸成、心理的安全性の確立などを図る機会を提供する。

◆事業内容

日時：令和7年11月26日（水）

場所：兵庫県公立大学法人 芸術文化観光専門職大学（兵庫県豊岡市山王町7-52）

内容：体験活動Ⅰ 演劇的手法を取り入れたワークショップ 講師：学長 平田 オリザ

体験活動Ⅱ 大学施設見学+大学説明

対象：丹後中学校第2学年生徒 約15名

◆事業の様子



◆テーマ **RICプロジェクト「青翔開智中学校コミュニケーションワークショップ実施事業」**

◆研究者 講師 山内 健司

◆キーワード 演劇、表現、コミュニケーション、演劇教育

◆連携先 青翔開智中学校（鳥取県）

◆概要

演劇的手法を用いたコミュニケーションワークショップを実施することで、自主性や自立心の育成、多様性への理解、そして他者を尊重する姿勢を養うことを目指す。また、本学の特色であるコミュニケーション教育を体験することで、この分野への知的好奇心を高めることを図る。さらに、ワークショップで得た知見を実生活の活性化に役立てることを目指す。

◆事業内容

実施日：令和7年4月24日(木)

対象：中学2年生 54名程度

講師：山内 健司

会場：静思堂シアター

(※54名を2クラスに分け、同じプログラムを午前と午後の2回に分けて実施)

Aクラス	Bクラス
10:50~12:20 WS実施	10:50~11:20 学内案内
12:30~13:30 お昼休憩	11:20~12:20 お昼休憩
13:30~14:00 学内案内	12:30~14:00 WS実施

◆事業の様子



◆テーマ **RICプロジェクト『ふれぶんアートマネジメント講座 2025<<実践編>>』企画
コーディネート事業**

◆研究者 教授 古賀 弥生

◆キーワード アートマネジメント、文化のまちづくり、地域活性化、人材養成、ネットワーク形成

◆連携先 春日市ふれあい文化センター

◆概要

「地域社会」と「芸術文化」の間をつなぐ“アートマネージャー”として、地域に根差した活動を行うために必要な視点や考え方、ノウハウを修得する。市民やコミュニティの抱える課題やニーズに応えるための取り組みについて、調査を行ったうえで、次年度に実施する具体的な事業案を提案する。

◆事業内容

講座のプログラム立案、運営の監修及び研修講師を担当。

□対 象：地域社会と芸術文化活動をつなぐアートマネージャーを目指す方。

将来、アートマネジメントに関する仕事に就きたい方。

定員 10 名程度

□開催日時：（古賀の登壇分のみ記載）

令和 7 年 5 月 17 日（土）14:00～17:30／5 月 18 日（日）10:00～16:00

8 月 24 日（日）13:30～15:30

11 月 1 日（土）13:30～16:35／11 月 2 日（日）13:00～17:00

□会 場：春日市ふれあい文化センター（福岡県春日市）ほか

□内 容：

（5 月）

講義：アートマネジメント概論～芸術文化とまちづくり・地域課題との関係～

ほかに春日市のまちづくりに関する行政職員による講座、地域資源を知るためのフィールドワークを実施。

（8 月）

春日市の文化振興に関する行政職員による講座、受講生のグループワーク。

（11 月）

受講生による企画提案の審査、2 案の選定と講評。実施に向けたチームビルディングなど。

* 各プログラムは春日市行政職員、文化施設、市民活動支援施設等のほか、NPO 法人ドネルモ等の協力により実施。

◆成果

1. 定員 10 名のところ 17 名の応募があり、選考の末 12 名の市民に参加していただいた。参加者はいずれも熱心で、文化活動のみならず多彩な活動の経験者が集まった。
2. 5 年計画の人材養成講座の 4 年目にあたり、仕上げにあたる企画提案と実施に向けた上級編ともいえる内容になった。単年度の実施では基礎知識の修得にとどまることが多いが、本講座では具体的な地域の課題や資源を調査したうえでの企画提案と、それを審査員に伝えるプレゼンテーションまでを実施し、講座名のタイトルどおり実践的な深い学びを提供できた。
3. アイスブレイクやグループワークを通じて参加者同士が交流し、休憩時間や講座終了後も話し込むなど、今後の活動につながるネットワーク形成を促進できた。
4. 行政職員に受講生のヒアリングや審査の過程で協力を仰いだことで、芸術文化を通じたまちづくりの可能性に関する認識を向上させる機会にもなった。



講座の様子：左から 5/17、11/1、11/2

- ◆テーマ **大阪・関西万博「ひょうごフィールドパビリオンフェスティバル 2025」出展事業**
- ◆実施主体 **地域リサーチ&イノベーションセンター**
- ◆キーワード **芸術文化 演劇 観光 但馬 大阪・関西万博 ひょうごフィールドパビリオン**
- ◆事業内容

大阪・関西万博会場にて開催された「ひょうごフィールドパビリオンフェスティバル 2025」にて、但馬地域の観光をPRするステージ公演（2ステージ）を実施した。

日時：令和7年5月28日(水)

場所：大阪・関西万博 会場内特設ステージ

内容：桃太郎になぞらえた但馬を舞台とした演劇、コウノトリ体操、観光 PR トークセッションの3部構成

出演：高橋 伸佳（芸術文化観光専門職大学 教授）、芸術文化観光専門職大学 学生

◆事業の様子



◆事業名 **CAT 舞台芸術実習公演**

《Performing Arts Project (PAP)》

《TAJIMA YOUTH THEATER (TYT)》

◆担当教員 准教授 尾西 教彰、准教授 杉山 至、講師 鎌田 麻衣子、講師 河村 竜也、
講師 近藤 のぞみ、講師 山内 健司、助教 田上 豊

◆キーワード 演劇 公演

◆概要

「CAT 舞台芸術実習公演」とは、授業の一環として取り組む公演事業。第一線で活躍する国内外のアーティストが携わり、学生と共に演劇やダンスなどの舞台作品を創作している。令和7年度は、PAP vol.6として平田学長の代表作『もう風も吹かない』を上演。TYT では、植村直己をモチーフにした新作を創作し、学術情報館と豊岡市立府中小学校で上演した。

◆事業内容

1. Performing Arts Project vol.6

『もう風も吹かない』

作・演出：平田オリザ

出演・スタッフ：芸術文化観光専門職大学 学生

会場：芸術文化観光専門職大学 静思堂シアター

期間：2025.11.29[土]－12.7[日]

全7回／入場者数：約690名

2. TAJIMA YOUTH THEATER

『クライマークライマー』

作・演出：田上 豊

出演・スタッフ：芸術文化観光専門職大学学生

【学術情報館公演】

会場：芸術文化観光専門職大学 学術情報館

期間：2025.11.7[金]－8[土]

全2回／入場者数：約200名（ゲネプロ含む）

【小学校公演】

会場：豊岡市立府中小学校体育館

公演期間：2025.11.15[土]

全1回／入場者数：約250名



PAP vol.6『もう風も吹かない』舞台写真
©トモカネアヤカ



TYT『クライマークライマー』舞台写真

■行政・団体・企業等との連携協定

2025 年度締結

企業名	協定名	協定内容	協定締結日
(一社) 兵庫県中小企業家同友会	芸術文化観光専門職大学と一般社団法人兵庫県中小企業家同友会の連携に関する協定	互いの保有する資源や情報等を用いて連携・協力し、双方の発展に寄与すると共に、地域中小企業並びに地域経済の発展と地域社会の活性化に貢献する。	2025.6.19

2022 年度締結

企業名	協定名	協定内容	協定締結日
たじま農業協同組合	芸術文化観光専門職大学とたじま農業協同組合における産学連携協力の推進に係る協定	但馬地域内における観光と農（食）の更なる連携を促進し、産学連携による地域活性化を図る。	2022.10.21
宝塚市	宝塚市と芸術文化観光専門職大学との包括連携協定	芸術文化及び観光を生かした地域活性化に資する取組や人材育成により、宝塚市域の持続的な成長及び市民サービスの向上を図る。	2023.3.24

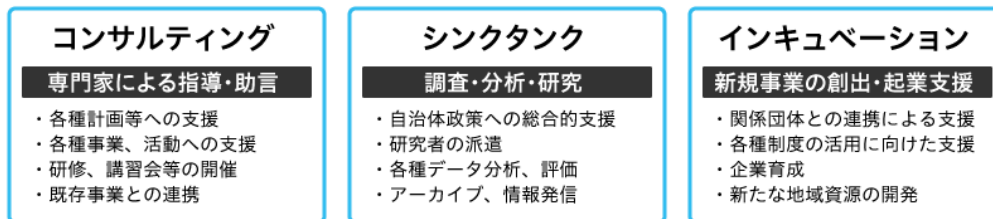
2021 年度締結

企業名	協定名	協定内容	協定締結日
豊岡市 (株)EXx	豊岡市における電動キックボード実証実験に関する連携協定	(株)EXx の電動キックボードサービスによる二次交通の利便性向上に向けた実証実験を実施。	2021.6.3
KDDI(株)	芸術文化観光専門職大学とKDDI 株式会社との包括的連携に関する協定	5G 基地局を本学に開局。教育環境の充実や芸術観光分野における共同研究を促進。	2021.7.21
全但バス(株)	芸術文化観光専門職大学と全但バス株式会社における産学連携協力の推進に係る協定	新たな観光資源の開発や路線バスの利活用、地域人材の育成など、地域課題の解決や地域創生を図る。	2021.10.15
(株)但馬銀行	芸術文化観光専門職大学と但馬銀行における産学連携協力の推進に係る協定	地域産業の活性化を図るため、地域課題の解決や地域の新規事業創出・起業支援などを推進。	2021.11.15
但馬信用金庫	芸術文化観光専門職大学と但馬信用金庫における産学連携協力の推進に係る協定	地域産業の活性化を図るため、地域社会や地域経済の維持・発展、相互の資源を活かした交流を推進。	2021.11.15
兵庫県商工会連合会	芸術文化観光専門職大学と兵庫県商工会連合会における事業連携に関する協定	相互の教育研究活動の推進による人材育成、県下商工会における経営改善普及事業・地域振興事業の推進、地域中小企業の発展と地域経済活性化を促進。	2021.12.3
豊岡商工会議所	芸術文化観光専門職大学と豊岡商工会議所の連携協力協定	地域産業の振興、中心市街地活性化、人材育成、学術研究・広報などの分野での相互の人的・知的資源の交流や活用を促進。	2021.12.16
和歌山大学観光学部・せとうち観光専門職短期大学	芸術文化専門職大学・和歌山大学観光学部・せとうち観光専門職短期大学連携・協力に関する包括協定	教育・研究等の人的交流、知的・物的資源の相互活用、学生・教職員の交流等について連携・協力を推進する。	2021.12.20

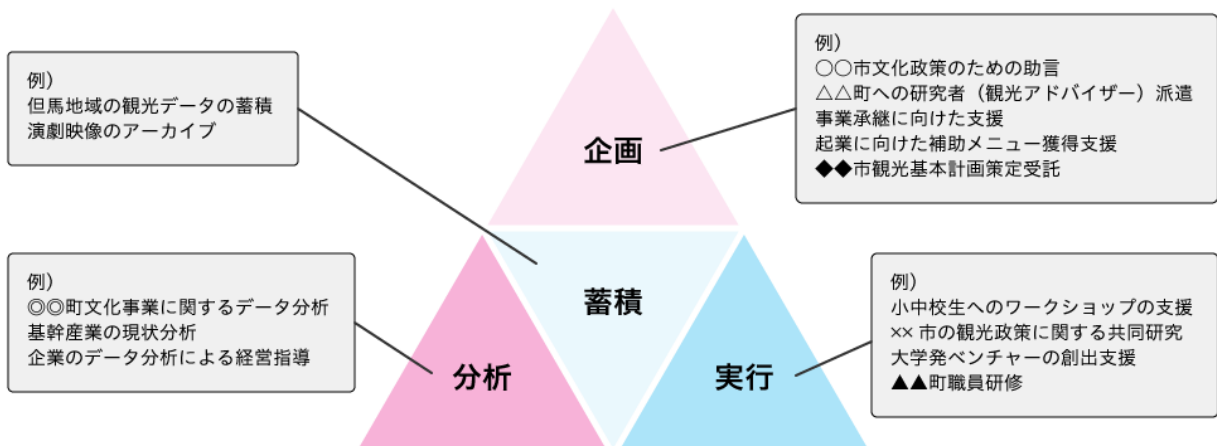
地域リサーチ&イノベーションセンターについて

2021年に開学した芸術文化観光専門職大学では、地域連携の推進拠点として「地域リサーチ&イノベーションセンター」（略称：RIC「リック」）を設立しました。RICは、地域と大学をつなぐ窓口となり、地域課題の解決を通じて地域と大学を進化させることを目的としています。

【地域リサーチ&イノベーションセンターの3つの機能】



【各フェーズにおけるプロジェクト】



◆ お問い合わせ・産学官連携申し込み

芸術文化観光専門職大学

・地域リサーチ&イノベーションセンター（RIC） ・地域協働課

〒668-0044 兵庫県豊岡市山王町 7-52
 電話 0796-34-8123（代表）、34-8162（RICダイヤルイン）
 URL <https://www.at-hyogo.jp/>
 Mail cat-hyogo@ofc.u-hyogo.ac.jp



“「星のクライマー～植村直己」プロジェクト”演劇創作事業



新温泉町居組 観光・スポーツ振興に向けたフィールドワーク事業



芸術文化観光専門職大学
Professional College of Arts and Tourism